

板橋区子ども読書活動推進計画 2025

(概要版)

「絵本のまち板橋」～絵本がつなぐ読書活動～

子どもたちの豊かな感性や情緒を育て、生きる力を身につけます

子どもの読書活動の推進に関する法律の基本理念は、読書活動は「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない」とあります。

板橋区の子どもの豊かな感性や情緒を育て、生きる力を身につけることを目的に、更なる環境整備を進めるとともに、本計画における取組を、教育委員会をはじめとする行政機関が家庭・地域・学校と連携して積極的に読書活動を推進します。

■ 計画の位置づけ

「板橋区子ども読書活動推進計画 2025」は、「いたばし学び支援プラン 2021」の下位計画として、板橋区における子どもの読書活動推進に向けた施策の方向性と取組を計画するものとしています。

■ 計画の期間

第1期計画から計画期間を5年間として策定し、平成28(2016)年度から令和2(2020)年度までの5年間を第2期計画として策定しています。本計画においても、令和3(2021)年度から令和7(2025)年度までの5年間を計画期間とします。

毎月23日は家庭読書（うちどく）の日

令和3年5月

板橋区教育委員会

計画の目標及び基本方針

■ 計画の目標

先行き不透明な予測困難な時代の中で、加速度的に進展する情報化への対応や新学習指導要領の着実な実施に向けて、読書の果たす役割を念頭に置きながら、

『様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるよう、板橋区の子どもたちの持つ資質・能力を育成するために、読書活動を通じた読み解く力、他者への思いやりと人間関係を築く力を育てる』ことを読書活動計画の目標とします。

■ 基本方針

(1) 子どもの読書のための環境の整備・充実

乳幼児期のできるだけ早い段階から、絵本をはじめとした本にふれあう機会をどれだけ増やすことができるのかは、周囲の大人の関わりが重要になります。

区立図書館の積極的なアプローチと情報発信により、児童館、保育所、幼稚園、小学校、中学校、学校図書館等、関連施設との一体的な取組により、子どもの読書環境の整備・充実にめざしてまいります。

(2) 子どもの年齢・発達の段階に応じた取組

子どもの興味にあわせた年齢ごとのおすすめの本や、長年にわたり読み継がれてきた不朽の名作を、身近な人に読んでもらうことがとても大切です。特に、親子のコミュニケーションを深めながら、本の世界を楽しめた子どもたちは、自分から読むことを自然に身に付けるため、読書離れを加速させることはないと考えます。その効果を高めるため、子どもの年齢・発達の段階に応じた具体的な取組を進めます。

- ① 乳幼児を対象とした取組
- ② 小学生を対象とした取組
- ③ 中学生を対象とした取組
- ④ 中高生（ティーンズ）世代を対象とした取組
- ⑤ 特別な支援を必要とする子どもたちへの取組

(3) 家庭・地域・学校との協力、連携による取組

社会に開かれた教育の実現には、家庭はもとより、地域や社会全体で支える環境が必要です。学校内においては教員や学校司書をはじめ、区立小中学校のPTAや板橋区コミュニティ・スクール（iCS）などの地域の活力や、区内企業や大学などの社会資源を生かした大人との関わりを活発化させることが重要です。今後も教育委員会をはじめとする行政機関が家庭・地域・学校と連携して積極的に取組んでまいります。

■ 重点施策

子どもの読書活動を推進するうえで特に重視すべきは、①乳幼児期のできるだけ早い段階から、読書に親しむ環境をつくること、②本を読むことを楽しみながら読書を習慣化させること、③教育委員会をはじめとする行政機関が家庭、地域、学校と連携して取組むこと、この3点に重点を置き、読書活動を推進していきます。

令和3年3月開館の新中央図書館は、いたばしボローニャ絵本館を併設し、区がめざす板橋ブランドでもある「絵本のまち板橋」の発信拠点となり、区立図書館全館で事業を展開します。これを機に、絵本を生かした取組を重点施策として位置付けます。

絵本のまち板橋

くくく
3つのビジョン

つくる

絵本との出会いの場をつくる

子どもたちが絵本を身近に手にする出会いの場やきっかけを作る取組を展開します。

家庭における読み聞かせが充実するよう、子どもの年齢に応じた本の提供を積極的に行い、早期からの本との触れ合いを広げていきます。

つなぐ

絵本で親子のコミュニケーションを深め、家庭の輪をつなぐ

新たな生活様式や働き方の多様化、個々の多様性が広がる中で、親子の繋がりも変化しています。絵本を通じた親子での会話やコミュニケーションが深まるよう、絵本が身近にあるもの、家庭の輪を繋ぐものとしします。

つたえる

絵本文化を築き、人から人へ伝える

家庭・地域・学校と図書館が一体的に行う取組により、子どもから大人まで、あらゆる世代の交流を活発にし、人から人へ絵本の良さを伝えていくものとしします。

